



第3号 特大号 令和3年7月20日発行



社会福祉法人 和歌山つくし会

本部 和歌山県和歌山市吉礼字八ツ井486番地の1
TEL: 073-488-7470
FAX: 073-478-1900

事務局 和歌山県岩出市中迫665
TEL: 0736-69-1772
FAX: 0736-69-5251

特集 「私の仕事への想い」

1. 祝！月野名誉院長

読売新聞社 第49回 医療功労賞受賞！

2. 新任挨拶

和歌山乳児院 院長 和田 万智子
広瀬幼保園 園長 佐伯 正季
つくし医療・福祉センター
副院長 鈴木 啓之

4. 職員投稿 「私の仕事への想い」

つくし医療・福祉センター
療育部長 小浦 由加里
つくしの里こども園
主任保育士 部谷 匡子

6. つくしっ子インタビュー！

新着！つくし・医療社センター
事務部長 中谷 政紀

8. 「イタリアで見つけた 共生社会のヒント」 出版される！

9. つくしっ子 イタリア倶楽部

10. 編集後記

理事長、パンダ列車に乗る！

3. 連載

第3回「フォスタリング」
里親支援センターなでしこ
センター長 森下 宣明
第2回「対話と連携の試み」
つくし医療・福祉センター
小児科部長 紀平 省悟

5. つくしっ子 TOPICS

其之壱 中・長期計画策定について
其之弐 和歌山つくし会職員等の
ワクチン接種状況

7. つくしっ子ニュース！

其之壱 **瑞宝単光章受章！叙勲祝賀会**
小西 守美子さん・宮崎 裕子さんを祝って
喜びのことば 宮崎 裕子
其之弐 令和3年度 新規採用並びに
人事異動
其之参 つくしっ子 もふもふニュース！！
院長先生とわんこ
其之四 手話講座 盛況！



パトラちゃん



第49回 医療功労賞を受賞して

つくし医療・福祉センター 名誉院長 月野隆一

この度思いもかけず栄誉ある「第49回医療功労賞」を頂き大変光栄に思うと同時に驚いております。「医療功労賞」と言う名前は聞いたことはありましたが、何方か他所の世界の所詮他人事と気に留めたこともありませんでした。

事の発端は林センター長から「つくし医療・福祉センターで15年勤務した医療関係者は申請して貰うことになっている」とのことで申請書類一式を渡されました。キツネにつままれたとはこのこと？どうやらそういう決まりになっているようなので私がパスして今後の人に迷惑をお掛けしてはいけないので書類を埋めて飯塚忠史院長の推薦状と一緒に提出させて頂きました(2020.8.31)。飯塚忠史院長の推薦状には何を推薦して良いのか判らず苦勞した後が滲み出ていました。先ず各県で2名選出され、更に中央で全国集計した100名から10名が表彰される事になっているとのこと。ふんふんと人ごとのように聴いていたのを思い出します。

その後廊下で林センター長とすれ違っても何も仰らない。丁度その頃新型コロナウイルス感染症が流行し対応に振り回されいつしか忘れていました。

何月頃だったか忘れましたが、ある日突然「讀賣新聞社和歌山支局の方からお電話です」と。「お目出度う御座います。第49回医療功労賞受賞者として和歌山県から選出の2名の内の一人として選出されました。取材に参りますから〜〜〜」

和歌山県で15年以上障がい医療に従事している医師は少ないので選ばれたのだなと思えました。それで一件落着！！と思っておりましたところそれから数か月後「讀賣新聞東京本社から電話です」と「全国100名の医療関係者の中から更に10名が選考されて先生が選ばれました」とのこと。そんなはずは無い！！

どういう力学が働いたのだろうと林センター長にも聴きましたがハッキリしない。相前後して県庁の野尻孝子技監から電話があり「受賞お目出度う御座います」との事。もしかして岩出保健所雑賀博子所長さんもお尽力下さったのかと思ってお電話したところ「受賞お目出度う御座います。職員一同喜んでおります」とさらっと流されました。恐らく影に日向にご尽力下さったと思われませんが全くそのことには触れない大人の対応には正直頭が下がりました。

結局周囲の皆様方のご尽力により受賞させて頂きました。有難う御座いました。

受賞に廻りの方々から御支援戴いたのは月野個人ではなくつくし医療・福祉センターが評価されたのだと確信しております。職員の皆様方の日頃からのご尽力のお陰と深く感謝致します。

もう一つ今回の受賞で評価戴いたと思われる和歌山療育研究会について、閉会時の文章で活動の一端を紹介させて頂きます。

和歌山療育研究会閉会のご挨拶と御礼

和歌山療育研究会（本会）の発足は私の記憶では昭和56年（1981年）だったと思われます。当時「ダウン症の早期療育」が話題に昇り始めていました。田川元康和歌山大学教授、無井純一先生と私の3人で和歌山でもやってみようと田川教授の演習室に集まったのが本会発足のきっかけだったと記憶しています。

その後、障害児の療育に係わる全ての職種が共通の場でお互いに情報交換し、勉強しようとの機運が盛り上がり、毎月第2火曜日の夕方を定例会としてスタートしなんと35年が経過致しました。

会場は発足当初は「和歌山書店」の2階（部屋一杯に大きなグランドピアノが置いてあった）に皆さん座り込んでの話し合いでした。その後和歌山医大（移転前のお城の前にあるころ）の講義室をお借りすることができ、大学移転と共に和歌山ビッグ愛9階男女共同参画センターへと移転しました。全て無償で提供して頂き、深く感謝する次第です。

35年もの長期にわたり毎月継続出来たのは会員はもとより、快く講師を引き受けて下さった皆様、そして実務を担当して下さった中西靖治様の熱意が無ければ到底為しえなかったと深く感謝しております。

平成28年3月8日、最終例会を迎えるにあたり、発足当初のメンバーである無井 純一先生（僧侶「療育はだれのために？」）と私「遺伝医療の今後」が最終講演を引き受けさせて頂きました。多数の皆様のご出席を頂き感激致しました。

幸い本会は今後井上 美保子先生（日本赤十字社和歌山医療センター〔現：つくし医療・福祉センター〕小児科）、川野琢也理学療法士（和歌山つくし医療・福祉センター）のご両人が引き継いで下さり「ノベルテの会」として形を変えて再発足して下さる事になりました。

今後も本会に頂いたご支援に増して、御支援・指導をお願い申し上げます。

本会を終えるにあたってこれまで御指導、ご協力を頂いた皆様方に改めて御礼を申し上げます。本当に有り難う御座いました。

「だれもが生きやすい社会」を目指して余生を頑張りたいと思っています。

平成28年3月9日 和歌山療育研究会会長 月野 隆一

表彰式が最初は3月に予定されていましたが新型コロナウイルス感染症の影響で6月20日に延期になり最終的には中止になりました。天皇皇后両陛下に拝謁出来なかったのが本当に残念です。



新任挨拶

和歌山乳児院 院長 **和田 万智子**

令和3年4月1日付けをもちまして和歌山乳児院院長に就任いたしました。

まずは、院長就任に至るまでのお話をさせていただきます。

遡る事、令和2年3月6日朝、林センター長から4月から副院長として乳児院への異動を伝えられました。そして、4月から乳児院で勤務する事となりましたが、以前乳児院でお世話になっていましたが、やはり離れていた3年は長くなかなか慣れずに戸惑っていると、谷本理事長が声をかけて下さり、岡園長より励ましの言葉を頂き、そして気持ちに余裕のない私を、いつも変わらず温かく指導して下さいました森下センター長また、乳児院職員の皆さん、周りの方々に支えられ何とか1年が過ぎました。

そして迎えた令和3年4月1日院長就任。まだまだ不慣れで日々緊張の連続ですが、法人理念である「つくす」を念頭に、子ども達が「安全・安心」な生活が送れるよう誠心誠意努めさせていただきますと思っています。乳児院の子ども達がこれから成長していく中で、「人生は楽しいな。」と感じ「生まれてきてよかった」と思えるよう職員と共に、子ども達に寄り添い深い愛情をもって、未来ある子ども達の心身の健やかな育成に努めてまいります。又乳児院の、今後さらなる多機能化・高機能化に向けた取り組みにも微力ながら貢献できるよう、一層の努力を惜しまず精進してまいります。

今後ともご指導よろしく願いいたします。

最後に子どもの可愛い会話を紹介させていただきます。

普段はお昼寝の苦手なおしゃまな3歳児AちゃんBちゃん。

いつものようにお昼寝の時間になり始まった会話

Bちゃん：「Aちゃん今日はね～～」とAちゃんに何度か話かけるがAちゃん今日はとても眠く少し不機嫌な様子。何度かBちゃんに話しかけられ最後にAちゃんが「Bちゃん、早く寝な～。かしこに寝て起きたら、お買い物につれちゃーよ。なっ！はよ寝な～。かしこいな。」と一言・・・和歌山弁たっぷりの会話に思わず笑ってしまいました。こんなかわいい子ども達に日々癒され、パワーをもらっています。



「立腰」について

広瀬幼保園 園長 佐伯正季

令和3年4月から広瀬幼保園の園長を拝命いたしました。

子どもたちの笑顔に癒され、おいしい給食をいただけることに感謝している毎日を過ごしています。

こちらへ来てすぐに「りつよう」という言葉を聞きましたが、恥ずかしながら今まで馴染みのある言葉ではありませんでした。「立腰」とは、教育者・哲学者の森信三先生が提唱されたもので、腰骨を立てて姿勢を良くする習慣を身につけることによって、

- ① やる気がでる
- ② 持続力がつく
- ③ 集中力がつく

などの効果があるというものです。猫背や体のゆがみで姿勢が悪ければ内臓を圧迫したり、今はやりのスマホ首やストレートネックなどで血管に圧力がかかると肩や首への負担が大きくなり、体に不具合が出たりします。

姿勢を良くするということは、子どもの人間性を育むことと無関係ではないと考えられ、継続的に取り組むことでやる気・持続力・集中力の効果により、精神面・身体面・行動面への影響は大きいものとなるでしょう。

また、姿勢とともに大切にしてもらいたいのは、呼吸です。浅い呼吸ではなくゆっくり深い呼吸をすることにより、リラックスでき落ち着くことができ体にも心にも良い影響を与えます。良い姿勢では緊張状態になってしまうことがあるので、呼吸に注意をすることも必要だと思います。

その他、広瀬幼保園では、「漢字仮名交じり絵本教育」を実践しているとともに、体育教室、学研教室、茶道教室を取り入れて教育の充実に努めています。

未来への宝である子どもたちが笑顔で生き生きと過ごせる、保護者が安心して預けられる、そして職員にとって快適な環境が保たれる園であるように、経験豊富な職員の皆様に助けをいただきながら、「つくす」の理念を忘れず精進してまいります。

新型コロナウイルスワクチン接種が順調に進み、少しでも早く安心してウイルスと共存できる生活がやってくることを願っております。



和歌山つくし医療・福祉センターに赴任して

「Cure（キュア・完治）からCare（ケア）中心の医療を模索して！」

つくし医療・福祉センター 副院長 **鈴木啓之**

初めまして、4月からお世話になっています鈴木啓之です。これまで和歌山県立医科大学小児科で小児医療に約40年間従事してきました。小児の心血管疾患、特に先天性心疾患と後天性心疾患の代表である川崎病を専門としてきました。先天性心疾患では、多くの重症例の早期診断と手術の適否を判断し、可能な限り通常の日常生活が送れるような最善の治療（Cure・キュア・完治）を求めて活動してきました。また、川崎病では、その原因究明研究、後遺症としての冠動脈瘤を生じさせないための治療研究、そして不幸にも巨大冠動脈瘤を合併してしまった小児への最善の治療管理を目指してきました。すなわち、常にCure（キュア・完治）を目指した医療活動を行ってきました。

一方で、先天性心疾患では、全身症状の一部としての心疾患の小児も多くあり、染色体異常を合併した子ども達については心疾患の治療が落ち着いた段階あるいは終了後に、その後のケア・管理を、つくし医療・福祉センターの月野先生、飯塚先生、愛徳福祉センター、紀南地方の子どもたちは紀南の先生方をお願いしてきました。従って、基本的にはCure（キュア・完治）を目指して医療活動を行ってはきましたが、その後も併存する慢性疾患に対してCare（ケア）が必要な患者さんが多くいることも経験してきました。しかしながら、昨年、当センターからお誘いを受けた際に、Cure（キュア・完治）中心に活動してきた人間にCare（ケア）中心の当センターでの職務が務まるのか大いに不安がありました。

4月に赴任して以来、実際に多くの患者さんを目の前で診て、それぞれの患者さんが抱える問題点を実感し、今まで経験したことのない課題に直面して戸惑うことも多々ありますが、40年前に経験した研修医時代の気持ちに立ち返って、スタッフの皆様の助言・指導を仰ぎながら毎日研鑽に努めています。そして、細やかなCare（ケア）の複雑さ・重要性・大切さを痛感する毎日です。

これまで培ってきた最新医療の活用も考慮してCure（キュア）の精神も残しつつ、一人ひとりの患者さんに求められている適切で快適なCare（ケア）とは何かを模索しながら、日々、研鑽を継続していきたいと考えています。どうかよろしく御指導の程お願い致します。



連載 第3回

「フォスタリング」

里親支援センターなでしこ センター長 森 下 宣 明

これまで2度にわたり、里親制度と課題について説明してきました。今回は少し視点を変えて私自身のことについて、お話することにします。

私たち夫婦が養育里親として登録したのは、今から12年余り前の2008年12月17日でした。結婚して25年が経過し、4人の子育ても一段落し、これからは少し楽ができると思っていた時に、「里親がしたい」と、妻から提案されました。

仕事柄、多くの里親さんと接していましたので、私たちに里親が務まるかどうか、不安な面もありましたが、妻の「やる気」に押されて児童相談所に申し込みました。

その後、研修を受け（施設職員であるので実習は免除されました。）、無事登録することが出来ました。

登録をしたら、すぐに子どもを委託されると思っていたのですが、児童相談所からは梨の礫でした。（これは、その時の状況次第という事で、タイミングを外されると委託に繋がらないケースも多い。）

3か月が経ち、もう委託は無いのかなあと思っていた時に、児童相談所から電話がありました。

現在、医療型障害児入所施設に入所している1歳5か月の子どもの里親を探している、できれば特別養子縁組も希望しているとのことでした。詳しく事情を聞くと、出生時に一度、乳児院への入所の打診があり、私自身が病院まで会いに行った子どもでした。（その時は、事情により入所に至らなかった。）

その後、家族で相談し、委託を受けることになりました。

何度も施設に通い、日常生活の介助の仕方や訓練の方法を学び、外出、外泊を繰り返し、児童相談所での感動的な委託式を経て、ようやく正式委託となりました。

（5月15日は、その子が我が家にやってきた記念日として、毎年お祝いをしています。）

あれから12年、「なんとかしてやりたい。」という妻の思いにより、和歌山だけでなく、大阪や神戸の病院に通い、いろんな方に助けられ、障害と付き合いながら日常生活を送っています。現在は、再来年の高校進学を控え、障害児を受け入れてくれる高校を探しています。また、この子の成長の節目節目で、実親に会わせてやりたいと思い、児童相談所に相談していますが、現在まで一度も叶っていません。思いを受け止めてくださるまで、粘り強く交渉していこうと思っています。

最後になりましたが、里親をして良かったことは、バラバラになっていた家族が一つになったということです。あと何年、この子と一緒に過ごすことが出来るかわかりませんが、家族で力を合わせて、ずーっと見守っていきたいと思っています。



連載 第2回 対話と連携の試み～ 『アドバンス・ケア・プログラムについて』

つくし医療・福祉センター 小児科部長 **紀平省悟**

アドバンス・ケア・プログラム（ACPと略記）とは、国が「人生会議」と呼んで奨励している取り組みのことで、「どのような死を迎えるか」という課題を扱い、医療に反映させるものです。その源流のひとつはアメリカで起きたカレン・クインラン事件（1975年）にさかのぼることができます。植物状態となった若い女性（カレンさん）の治療をめぐり、病院と対立した家族が勝訴して翌年に人工呼吸器がはずされたという歴史的な事件です。それから彼女はさらに9年間生き続けたそうです。

この裁判は当時の日本にも脳死や尊厳死の議論をかき立てました。たとえ脳が活動を止めても肉体が生きているかぎり、それをもって死とすることを、日本人の死生観はなかなか受け入れませんでした。でも、そんな議論にも当時はどこか「他人事」といったおもむきがあったのです。その後、団塊の世代が大量死にむきあう高齢化社会になってはじめて、終末をどう迎えるか「自分事」になってきたのかもしれません。

さて昨年2020年秋、私は院長の指示でACPチームに参加しました。院内図書コーナーにあった教科書を読むと、日本各地の実践はどこもまだ手探り段階とわかりました。つくしのチームも悩みながら試行錯誤を続けていました。どうやらその苦勞の中心に家族との話し合いの難しさがあると、私は直感しました。終末期医療における自己決定といっても、当センターの場合、ほとんど家族と話し合う作業が出発点です。そこで私が意図したのは、意思決定を導く前に、まずは家族の『ケア体験』の語りにじっくりと耳を傾けることでした。

こうして関係者の努力で、2020年11月（第1回）から2021年3月（第4回）まで、合計4人のご家族を迎えて対話の場をひらくことができました。ダイアログの公式研修を終えた2名（川口由佳と紀平省悟）がインタビュアー／ファシリテーターとして、センターのスタッフ10数名とご家族との対話に臨みました。結果、じつに感動的な場となり、いずれも家族とスタッフから好評を得ました。しかも対話を契機に、家族とのコミュニケーションにも支援策にも目に見える新しい変化が現れたのは驚きでした。ご家族の思いが頭ではなく感情や身体感覚のレベルで共有されたからに違いありません。

じっさいの前半部分では先ず『説明モデル面接（クラインマン）』を用いて、参加者の前で家族から「ケアの体験」を聴き取ることにしました。これは医療人類学者アーサー・クラインマンが慢性疾患患者から『病いの語り』を聴くため1980年代に提唱したナラティブ・アプローチのひとつで、私自身が外来診療の親面接で30年近く続けているものです。これこそ最適と考え

たのでした。

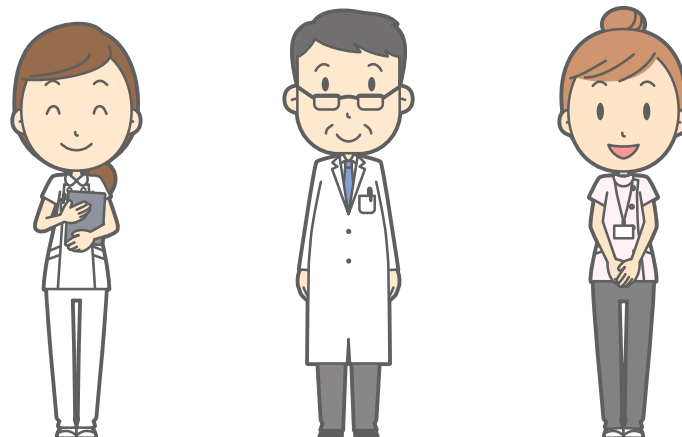
はたして当日、4人の語り手はそれぞれ大切な家族をケアしてきた体験を生き生きと語ってくれました。人生に織り込まれたその物語は、聴く者すべての心を揺さぶるものでした。私たちの施設にわが子やきょうだいを託した昔日の悲哀感が、その安堵と罪責感の入りまじったリアルな記憶が、まるで昨日のことのようには語られたのです。

『説明モデル面接』につづく後半部分は『コミュニティのダイアログ』で構成しました。すなわち利用者に関わってきたスタッフ（担当ナース、リハスタッフ、介護福祉士、保育士、サービス管理者、主治医など）が自分たちそれぞれの『ケア体験』を披露したのです。ご家族にとって初めて耳にするエピソードも語られたはずです。スタッフの話に触発されたある家族は、さらにスタッフも知らないような昔の牧歌的光景を語り始めました——家族も参加した運動会、面会時に療育棟に持ち込んだお弁当をわが子やきょうだい、他の家族と分け合った秘密のエピソード等々。そして対話の終盤、こんな言葉をため息まじりに発した語り手がいました。

「○○ちゃんはもうすっかりつくしの子になってしもたなあ・・・」。

そこには過去の苦しみや悲しみを手ばなそうとする瞬間の深いひびきがありました。それはすぐさま居合わせた全員にとどき、安心感へとおき変わっていったようでした。「こんなにたくさんの皆さんに守られて・・・」と、伝えられた感謝の言葉はとても心のこもったものだったからです。こうして予定の1時間半はあっという間にすぎました。

センターの入所者も家族も高齢化しており、終末期の話題となれば知らぬ間にタブーとなってしまう傾向があります。残された時間は少ないのです。だからこそ、このように家族と職員が互いの思いを共有することが大切なのではないのでしょうか。日程調整が大変ですが、このような対話の場を意識的につくっていかないかぎりACPの目的は実現されません。とても重要な取り組みなので、関心をもつスタッフが増えていくことを期待します。





職員投稿 私の仕事への想い

つくし医療・福祉センター 療育部長 小 浦 由加里

私は「看護師」という職を選び、かれこれ20数年になります。今まで看護師という職を変えたこともなく、この仕事が私の天職なのかなと思ながらやってきたような気がします。

もともと、高校を卒業するまで田舎の港町で暮らしていたので、近所付き合いなど人との関りを持つ機会が多く、おばあちゃん子でもあったので、特に高齢者の方との関りが好きでした。

私が看護職を目指したきっかけは、中学生のころ母親が交通事故で入院し、その時に対応してくれた看護師さんに惚れてしまったからです。（よくありがちですよ）この看護師さんに任せれば、お母さんをきっと元気にしてくれると思わせてくれる人でした。すごく優しく、家族のことも思いやってくれたことを覚えています。高校に入り、人の役に立てる仕事がしたいと思うようになり、看護師を目指しました。そしてあの看護師さん達と一緒に仕事がしたいと思い、母が入院していた病院に就職しました。憧れの人たちと仕事が出来る喜びと期待で胸がいっぱいでした。しかし、あの時は患者の家族という立場でしたが、今回は看護師見習いという立場だったので、看護師さんの私への対応は「月とスッポン」でした。あの優しい看護師さんはどこへ行ったのか？と思うくらいよく注意や指導を受けました。でも、今ではその経験や指導があったからこそ、私の忍耐力に繋がったのではないかと考えています。

その後奈良県の病院や和歌山県立医科大学付属病院で経験を積み、縁あって和歌山つくし医療・福祉センターへお世話になることになりました。それから、もうかれこれ10年になります。

医療畑でしか仕事をしたことがなかったため、福祉に関しては全くの素人でした。しかし、仕事をしていく中で気が付いたことは、縦割り行政で管轄の違いなどの問題はありますが、支援を受ける利用者側から見ると医療も福祉も関係ないということです。使える医療・福祉サービスはできるだけ使いたいという事です。当センターではそういった人たちが少しでも生きにくさを感じることなく、生活が送れるように支援していく役割を担っています。また、地域の中でともに生きる施設を理念として施設造りを目指しており、私自身もその大きな役割に向かって、微力ながら力を注いでいきたいと思っています。

私は一人の人間として仕事をする上で大切にしていることは「笑顔」「信頼関係」「思いやり」であり、相手の気持ちや痛みにも少しでも寄り添える人間でありたいと思い、ここまでやってきました。患者さんや利用者さんだけでなく、私の周囲の職員の方や家族や友達に対してもそうです。全力でし過ぎて空回りすることもあります、「ケセラセラ」で今までやってきました。でも、これは周囲の人たちの協力があってのことです。一人ではなく、多職種チームが一丸となれば道は開ける。「なんとかなる」そして、やりたいことが少しずつでも実現できていくと信じて、今後も精進していきたいと思っています。



つくしの里こども園 主任保育士 部 谷 匡 子

目標を目指すことを“高みを目指す”とも言いますが、その“高み”は人によっては私利私欲のこともあります。目標自体が自分のやりたいことなりたいことですから“欲”なのだと思います。その目標が高いほど熱意があり、目標に向かっての真っ直ぐな一本道が伸びているかもしれませんが、“高み”の先を見るためには首が痛くなるほど上を見上げなくてはなりません。その状態で首を左右に振れるでしょうか？ 振りにくいということは、周りの状況を見る余裕がないと言うことです。

一途に一本道を見上げることも大切ですが、後にできた道も一本道かもしれません。少し見上げる首の角度を緩め周りを見渡す余裕を持つと、道幅が広がり脇道ができる。その道幅が広がると、疲れた時には腰を下ろし寝転がることもでき、脇道に入れば新たな発見があり更に道（目標）ができることでしょう。

仕事とプライベートを分けリフレッシュは必要ですが、私は仕事を切り離すことが難しいタイプです。いつも「この曲、運動会（遊戯会）に踊ってみたい」「この衣装素敵！アレンジしたら縫えるかな」「これ、子どもたち喜ぶかな」など、「これ保育に使えるかも」と何でも繋げてしまいます。保育士あるあるなのかもしれませんが…。

運動を始めたのも保育園で関わる子どもたちの年齢が、永遠に0歳児～5歳児なのに自分は毎年確実に1つ年齢が増え体力が落ちるということに気づいたからです。ずっと一緒に散歩したい、追いかけてほしい、遠足で歩き疲れ子どもたちと会話を楽しみ表情を見る余裕を無くすのは嫌だと思いました。

プライベートでの経験を保育で取り入れ子どもたちが興味関心を持ってくれた時、私は私でいいんだよと気づかせてくれる瞬間でもあります。現在は淋しくも現場を離れていますが、異動を機に子どもたちと触れあい抱きしめさせてくれる機会が増えました。

幼稚園の頃に保育園か幼稚園の先生になりたいと夢を持った私に、「見て見て！こんな可愛い子どもたちに囲まれて、抱きしめられるよ、いいでしょう〜」と、自分の“高み”のナイスな選択とこの仕事の素敵さを教えてあげたいぐらいです。

私の“高み”は人から見れば高くないかもしれないし、人と比べるものでもない。でもこんな私としてはとってもいい選択をした“高み”はまだまだ続きます。そして誰もが安心して“高み”を目指しプライベートを楽しめる生活が早く送れますことをお祈りしています。

つくしっ子TOPICS 其之壺

中・長期計画策定について

創立以来50年以上が経過しました和歌山つくし会ですが、この半世紀の時の流れの中で、様々な出来事がありました。施設の統合や廃止、大規模修繕、引っ越しや建て直し、組織の見直しや新設。移り行く外部環境や法令に対応しながら、今後もいかなる時代においても利用者さんや職員の皆さんの為に安定した経営を維持していかなければなりません。

しかし、少子化問題、新型コロナウイルスの蔓延及び低迷し続ける日本経済など、残念ながら今のところ明るい要素は少ないように感じられます。

このような状況の中、国においては「地域共生社会」の実現に向け、社会福祉法が改正され、令和3年4月1日に「重層的支援体制整備事業」が創設されました。社会福祉法人においては、地域の様々な社会資源と連携し、より一層包括的に地域の課題に取り組むことが期待されていることから、事業目的をより明確にし、継続性、計画性に基づいて事業を管理、遂行していかなければなりません。

これらのことを踏まえ、「つくす」という理念を大切にするとともに基本方針に基づき、利用者さんから信頼される施設であり続けることを目標に、今年度中に中・長期計画を策定することといたします。

10年後にこの和歌山つくし会がどのような未来を描くのか？この法人の理念と基本方針に従って策定する長期計画、そして3年毎の中期計画では経営、サービスの質の向上、地域における公益的な取り組みの推進、教育・研修による人材の充実、BCP（事業継続計画）の策定等、様々な観点からより具体的な計画を策定してまいります。

そのためにはまず現状分析を行い、計画を立て、同じ目標を持つことによって、より地域に寄り添うことの出来る社会福祉法人に成長するために、様々な職種の方々が一丸となって取り組んで頂くことが必要であると思います。

長期計画

2022年4月1日～2031年3月31日

中期計画

第1期 2022年4月1日～2025年3月31日

第2期 2025年4月1日～2028年3月31日

第3期 2028年4月1日～2031年3月31日

つくしっ子TOPICS 其之弐

和歌山つくし会職員等のワクチン接種状況

オリンピックを控え、全国的にワクチンの接種が進む中、2021年6月末現在の和歌山つくし会職員等のワクチン接種状況は、和歌山つくし医療・福祉センター職員80.1%、入所者18.4%となっています。変異株の危険性も囁かれる中、園児と職員の命を守るため一刻も早い接種を和歌山市長に嘆願した結果、ワクチンを優先配布して頂けることになり、つくし医療・福祉センターが和歌山県認定こども園協会に協力し、7月17日より広瀬幼保園、つくし幼保園、その他施設の職員への接種が始まりました。また、和歌山乳児院とつくしの里こども園においても、乳幼児を預かる重要な施設であることから、岩出市の配慮により7月4日に岩出市総合保健福祉センター（アイアイセンター）で接種が始まりました。

持病があってワクチン接種のできない方や副作用を心配されている方もいらっしゃることから、私たちは今後も徹底して感染予防の注意を怠ることなく、これまで通り利用者さんへ充実したサービスを提供していきたいと考えています。





つくしっ子インタビュー！

新着！ つくし医療・福祉センター 事務部長 **中谷政紀**

今年度和歌山つくし医療・福祉センターに新しく赴任された中谷 政紀事務部長にインタビューをしてまいりました。和歌山県庁で長年勤務され、様々な業務に携わって来られた中谷氏、どのような経緯でここ和歌山つくし医療・福祉センターに来ていただいたのか、色々うかがって参りました。

1. 4月に着任されて3か月以上が経ちましたが、この和歌山つくし会の印象はいかがですか？

そうですね、一番驚いたことは職員さんの皆さんがとても活発に議論されているという事です。活発な議論をしながら仕事を進めている、それをすごく感じました。会議なども非常に多いですね。それから気持ちの優しい職員さんが多いので空気が優しいですね。利用者さんへの対応等を見ていると、やはり一般企業とは違う落ち着いた雰囲気を感じますね。

2. 和歌山県庁で長年勤務されたという事ですが、どのような分野で勤務されていたのですか？

「事務屋」とでも申しましょうか、専門というのがないのですが、若いころは税務課や広報、それから秘書課、農地転用の許可などの仕事をしておりました。後半は総務課や議会事務局などの仕事です。

3. なるほど！当時は硬い表情で？税務や広報、農地転用など、内容が全然違いますよね？

それは異動の度に学ぶのですか？

はい、その度に学びましたが、そこが県の難しいところです。全く違うところへ行かされるので。そこで、はじめは苦しむわけですが、やってみると、これがだんだんと面白くなってきます。公務員は土木や農林などの技術職の人は専門分野での仕事をするわけです。残念ながら私には、こちらに来る前には福祉関係の経験はありませんでした。

4. 学生時代はどのような分野の勉強をされたのですか？

大学は法学部だったので法律を学びました。総務課の時は条例の制定に関する仕事をしておりました。そういう意味では自分の範疇の仕事だったのかな、と。

5. こちらに来ていただいてから、弁護士さんへの対応などもお願いしていますが、中谷部長さんは法律の知識が豊富ですので、その点私どもも心強く思っております。

公務員としての仕事と社会福祉法人の仕事での違い、というのはどのような点だと思われませんか？

そうですね、社会福祉法人というのは公的な団体と営利企業の間位置するものだと思いますが、自分で考え、決めることが出来る範囲があると思います。そして収支に責任を持たねばならない。その点公務員というのは親方日の丸がついていますからね、こちらはその点違ってありますよね。常に利用者さんの目線でサービスやケアを着実にやり、その結果として利益を出していかなければならない。大変だと思いますが、尊い仕事だと思います。その反面、公務員でも行政改革があったり、人員削減があったりという時代もずっと続いて来たわけで、そういう意味では公務員とはいえ、厳しい環境であった時期もありました。

6. 最近では行政サービスが多様化し、より包括的な支援が求められていると思います。その点、職務がより複雑になっているような気がしますがいかがですか？それから最近の公務員のかたの言葉使いや、物腰はとても丁寧ですよ。働いている職員にはそれだけ負担になるのだと思います。

そうですね、その中でより効率的にこなしていかなければならないし、民間への委託は難しい部分も多いですね。職員の利用者さんへの態度などは入職時にしっかりと研修が行われていると思います。

7. お仕事上や人生の座右の銘を教えてください

仕事上でよく考えるのが「用意周到」ということですね。それから「臨機応変」です。それらを大事にしておりますが、実行するのは、なかなか難しいです。そして最後には「なるようになる！」です。全力でやる時はやるけれど、あまり結果にこだわるとしんどいかな、と。これはどのような仕事でも同じだと思うのですが。しかし、想定外の状況というのもあり得ますね。そこでまた、臨機応変です。実際、結果がわからないこともあります。一生懸命やったのち、ドアが開く。なるようになる、という事でしょうか？

そうですね、長い公務員生活においていろいろな事があったと思いますが、「用意周到」というのは予測される計画で、「臨機応変」というのは、これまでの経験を以て閃くかどうかという、感覚的なものですよ。そして、そのあとは「開き直り」と。(笑)

8. 好きな言葉は何ですか？

聖徳太子の17条憲法の第1条に「和を以て貴しとなす」、この言葉を県庁の秘書課時代に当時の西口知事がよく使っておられました。当時、知事のための挨拶文の下書きなどしておりましたので、その言葉に大いに思い入れがあります。考えてみれば、1500年以上前の人が憲法にそういう言葉を書いたというのは、本当にすごいことですね。

その他は英語でいうところのTake it easyです。(笑)

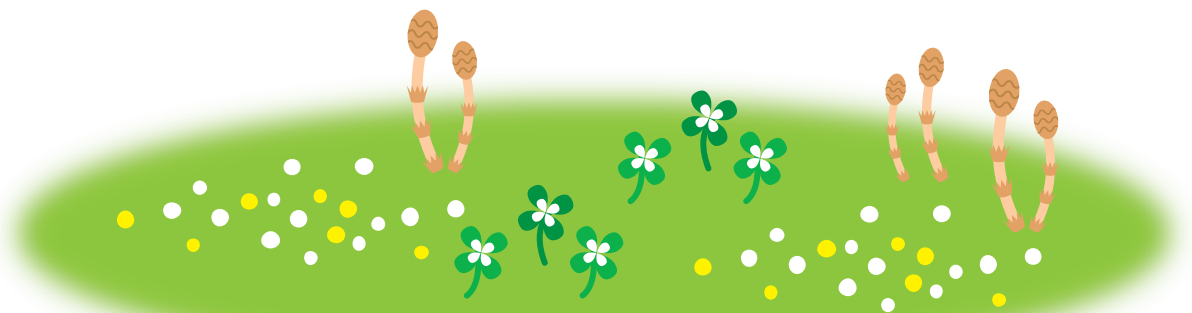
9. 余暇はどのように過ごされているのですか？

家が田舎なもので、少しだけ農作業をしたりしています。あとはゴルフの練習や、ドライブですね。どちらかというとな然派です。

10. 最後にご自分を動物に例えるとどのような動物でしょうか？

家で猫を飼っています。4匹います。「メロン」、「テンテン」、「ココ」、「ブイズ」です。子どもの頃から猫のいる環境で育ちました。毎日帰宅しましたら猫が我が家のあちこちで寛いでいますので、自然と猫派になりました。自分を動物に例えたとしたら、やはり猫か、少し間の抜けたタヌキかも知れません。(笑)

お仕事への打ち込み方、力強さと生真面目さに定評のある中谷事務部長さんですが、色々とお話をうかがっていく中で、ユーモアのある楽しい一面も見せて頂くことが出来ました。今後ともよろしく願いいたします。



つくしっ子ニュース！！ 其之壺

瑞宝単光章受章！令和3年度 叙勲祝賀会 小西 守美子さん・宮崎 裕子さんを祝って

令和3年6月9日（水）午前11時より和歌山乳児院2階地域交流室において、令和2年秋に瑞宝単光章を受章された小西守美子さん、令和3年春に同章を受章された宮崎裕子さんの叙勲祝賀会が執り行われました。

参加者一同より祝福を受け、「もったいないことです。」と謙遜されるお二人方ですが、長年の努力と福祉への功績が認められての栄えある受章。私たちもお二人方をお手本として、なお一層努力して参ります。これからも和歌山つくし会の「つくす」という理念を体現しつつ、ますますのご活躍とご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。





喜びのことば

和歌山乳児院 主任家庭支援専門相談員 宮崎 裕子

令和三年の春の叙勲に際しまして、思いがけず瑞宝単光章拝受の栄に浴しました。

このような身に余る栄誉を頂くことになりましたのも、これまで指導し育てて下さいましたたくさんの方々の先輩方や、支えて下さった同僚の皆様のお陰と深く感謝しております。

私は平成2年6月より30年間乳児院で務めさせていただいております。そのうち25年は入所している子どもたちと過ごさせて頂きました。新生児から概ね3歳まで。発育、発達が目覚ましい、責任重大で手はかかるもののかわいい盛りのお世話をさせて頂きました。

「笑った～」 「寝返りした！」 「立った！」 と子どもたちの成長の喜びを皆で分かち合えたことがしんどいことを上回り、子どもたちからもたくさんの力を貰いました。

現在は、子どもたちの未来を見据えてどのような支援ができるか、子どもを家庭で養育することが困難である、または適切でないと判断され、不本意ながら子どもと離れて生活することになった保護者の方にどのように寄り添い支援をしていくか、といったまた別の分野で責任重大な仕事をさせて頂いています。この分野でも上司、先輩、同僚と皆様から支えられて今日に至ります。職場に恵まれ、人に恵まれ、幸せなことで日々感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今後もこの栄誉に恥じることはないよう精進して参りたいと思いますので変わらぬご厚誼を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



つくしっ子ニュース！！ 其之弐

令和3年度 新規採用並びに人事異動

4月	森下宣明	(本部 事務局長)
	立本治	(本部 企画員)
	和田万智子	(和歌山乳児院 院長)
	中西江里	(和歌山乳児院 看護師)
	吉原千珠	(和歌山乳児院 保育士)
	仲山友美	(里親支援センターなでしこ 里親支援員)
	遠藤優	(つくしの里こども園 保育士)
	東絢音	(つくしの里こども園 保育士)
	中西友美	(つくしの里こども園 保育士)
	佐伯正季	(広瀬幼保園 園長)
	大西綾	(広瀬幼保園 管理栄養士)
	井上芽	(つくし幼保園 保育教諭)
	鈴木啓之	(つくし医療・福祉センター 副院長)
	赤井美津代	(つくし医療・福祉センター 医師)
	貴志知生	(つくし医療・福祉センター 医師)
	中谷政紀	(つくし医療・福祉センター 事務部長)
	中前鹿奈	(つくし医療・福祉センター 療育副部長)
	長谷川夢月	(つくし医療・福祉センター 看護師)
	正木孝佳	(つくし医療・福祉センター 看護師)
	寺岡龍生	(つくし医療・福祉センター 理学療法士)
	山名敏夫	(つくし医療・福祉センター 支援員)
	仲優弥	(つくし医療・福祉センター 介護福祉士)
	橋爪靖子	(つくし医療・福祉センター 保育士)
	夏目朋子	(つくし医療・福祉センター 保育士)
	小林美里	(つくし医療・福祉センター 保育士)
5月	松尾起佐	(つくし幼保園 保育教諭)
6月	谷口智香	(和歌山乳児院 保育士)
	大中亚	(つくし医療・福祉センター 看護師)

もふもふ

つくしっ子ニュース！！ 其之参 院長先生とわんこ

吾輩は犬である。

吾輩は犬である。名前はパトラ。名前からわかるように吾輩は雌である。しかし、顔が爺（じーじ）顔なので、「吾輩」が似合う。名前の由来はご主人のお母さまが、吾輩が非常に美犬なのに感心してクレオパトラの名前の一部を取って、パトラと名付けた。

吾輩の外見は立派な洋犬である。体重15kg、足は長く体高は56cm、後ろ足で立ち上がると、1m20～30cmはある。だが犬種はミクシー（雑種）である。母は血統書付きのエアデールテリアで、吾輩の外見は母似である。父はどこからかフラッと来て、母の家の庭の木戸を開けて入ってきたらしい。犬の「フーテンの寅さん」だったのかもしれない。そのままどこかへ立ち去った。そんな訳で生まれた吾輩はご主人の家に貰われてきた。

そのご主人というのは、どうやらお医者さんのようである。えらい院長せんせいのようで、何やらいつも忙しそうにしているが、吾輩の散歩は欠かさずしてくれているのである。

吾輩は若いころはグリーンがかった金髪の上着にやや白っぽいインナーで、ご主人様とともに散歩に行くと、道で会った10人中9人は私の美しさに目をくぎ付けにされた。

特に制服姿の女子高生は「可愛い」「可愛い」を連発して、道端に立ち止まった。ご主人様は内心鼻高々であるが、素知らぬ顔をして通り過ぎていた。そんな事も吾輩は知っている、吾輩は賢いのだ。

何時ぞや、ご主人の2歳の孫が我が家にやって来た時「パトラをチャイする」と言っておもちゃの刀を後ろに隠して吾輩の方に寄ってきた。親が横にいたので、吾輩はサッサと逃げた。親がいなくなってから、孫の背後からそっと近付いて両手で背中をトンと押した。孫は前につんのめって泣き出した。「ザマー見ろ、我が家のランクでは吾輩のほうが上なんだ、ポーっと生きてんじゃあねえよ！」



つくしっ子ニュース！！ 其之四 手話講座 盛況！

多機能事業所所長濱田拓也さんに講師を務めていただく手話講座が2021年4月9日に開講し、これまでに6回開催されました。

障がい者への理解と共生を目指し、手話が一つの言語であるという認識において、現在和歌山県を含む31道府県において、手話言語条例が定められています。

手話が一般の人々にも言語として広がることによって、耳に障がいのある人もない人も共に生き、心を分かち合う。これってとても素晴らしいことですね！

最初はまず50音の練習からでした。あ行、か行から始まり、4回目の講座で無事に50音終了！
優しくてとてもユーモアの溢れる濱田講師のおかげで、自分の名前や誕生日も表現できるようになりました。毎回30分ほどの講座ですが、その充実感といたら！

生まれて初めて体験する手話を使ってのコミュニケーション作り。

自分の思いを手話で伝えることができるように、これからも頑張りたいと思います。

現在の参加者は10名ほどです。

開催日は毎月第2、第4金曜日。場所はつくし医療・福祉センター2階地域連携室。

時間は午後6時30分からです。ご興味のある方は是非ご参加ください。

お申し込み、質問などは多機能事業所 濱田拓也所長まで。



見本を示す濱田講師



講師を真似るも… 「あああ～指がつって苦しい～」



「思っていたよりスムーズに出来ました！」



「イタリアで見つけた共生社会のヒント」出版される！

和歌山つくし医療・福祉センターリハビリテーション室 川野琢也室長初め9人の侍（コアリーダー）が、内閣府の2019地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム（障害者分野）・イタリア派遣」を通して、日本とイタリアの「インクルーシブ（包括した、すべてを含んだ）教育」の現状、相違点、強みと弱み、課題や問題点、そして、両国の地域社会や文化・風土にどう影響しているかを、イタリア訪問半年前からの事前学習、実際に訪問した10日間の体験談、訪問後の1年をかけての分析をまとめたものです。

「共生社会」とは、子どもも、高齢者も、障害のある人もない人も、働いている人もいない人も、様々な状況や状態にある全ての人々が、お互いの人権や尊厳を大切にしながら支え合い、共に生きていく社会のことです。

イタリアと日本の「インクルーシブ教育」には明らかに違いがあり、どちらが「良いか悪いか」ではなく、どちらにも強みや弱みがあります。両国とも長年培ってきた文化・風土が作り上げてきたものだと思います。

「障害を有する人も有しない人も共に住みやすい社会」を目指すことは、障害を「個性」として捉えることはもとより、あらゆる人が楽しく幸せな人生を送るための社会の実現という広い概念へとつながると思います。

日本でも今まで以上に「インクルーシブ教育」が理解促進され発展し、誰もが光り輝く「地域共生社会」を実現するための一助となることを願い、クラウドファンディングによるご支援や助成をいただくことで出版することができました。

これからの私たちの職務のあり方、社会福祉法人和歌山つくし会の目指す姿の参考にしていただけることと思います。

是非、職員の皆さんにもご一読いただければ幸いです。

「つくしジャーナル第4号」（令和4年2月発行予定）で川野室長の体験談やレポートを詳しく掲載しますので楽しみにお待ちください！



イタリア倶楽部

コロナ禍より立ち直りつつあるイタリア

現在のイタリアにおける感染者の数は1日に約700人、2021年6月より外出禁止時間がなくなり、レストランでの飲食も再開し、ほぼ以前のような生活が出来るようになりました。

2020年のピーク時には一日の感染者が20,000人を超えたあの悲劇。イタリア北部のロンバルディア州に端を発し、2月に開催されたかの有名なヴェネツィアのカーニバルが世界中を恐怖に陥れました。感染が街中に拡散したために、カーニバルは途中で中止となり、観光客は転がるように街から脱出しましたが、時すでに遅く、イタリア北部のみならず近隣の国にもパンデミックが猛烈な勢いで広がっていったのです。

ヴェネツィアのカーニバルには毎年世界中から300万人の観光客が来訪します。参加者は仮面をつけ、様々なコスチュームで仮装し、街を練り歩く、イタリアでも一大イベントの一つ！

観光客はヴェネツィア市が全力を挙げて開催するゴンドラのショーパレード、音楽会、舞踏会や衣装コンテストなどを楽しめます。

仮面や衣装には様々なものがありますが、やはり中世やルネッサンス期のものが人気です。その中で今回の悲劇に対してとても暗示的な「ペストの医師の仮面」というものがあります。ヨーロッパ中世のペスト専門の医師が患者を診察する時に感染予防のために被った、長くくちばしのついた仮面で、当時はくちばしの中に感染予防のための薬草が入っていたそうです。

2020年のカーニバルは途中で中止になりましたが、最後にこの仮面と長くて黒いマントを付けた「ペストの医師」に扮装した人たちが、祈りを込めて有名な観光地のサン・マルコ広場やサンタ・マリア・デッラ・サルデーテ聖堂の周りを行進したのです。サンタ・マリア・デッラ・サルデーテ聖堂は16世紀から17世紀にヴェネツィアでペストが大流行したために、健康祈願のために建てられた教会です。繰り返された悲劇。そして、明日に向かってまた立ち上がる人々。

ヴェネツィア市のカーニバル担当者達は「まさかそんなことになるとは思わなかった。この伝統のカーニバルが中止になること自体、想像も予測も出来なかった。」と言っています。コロナウイルスの危険性が、さほど認識されていなかったのです。州をあげての観光収入源であるカーニバルを成功させること以外に大切なことが見えなくなっていたのかもしれない。

日本では7月23日にオリンピックが開催されます。このウイルスの脅威が十分認識されている状態での開催！！

私の脳裏にはあの不気味な「ペストの医師の仮面」が浮かんできます。



編集後記 理事長、パンダ列車に乗る！

常日頃、地下鉄・電車・バスを乗り継いで大阪から通勤している和歌山つくし会理事長に驚くべきことが起こりました。忘れもしない2021年3月25日、つくし幼保園の卒園式に出席するため朝7時59分に天王寺から「特急くろしお」に乗車しようとした理事長でしたが、何ということ！ホームに入ってきたのは、あの「パンダくろしお」だったのです！

この列車を初めて見た理事長はびっくり仰天！先頭車両まで全力疾走し、喜びに震えながら写真撮影にも成功しました！ 後日、国内外にLINEで写真を送り続け、絶賛の嵐をあびたことは言うまでもありません。



「パンダくろしお」



「パンダ列車の連結部分」

つくしジャーナル第3号へのご協力誠に有難うございました。次回第4号は令和4年2月発行予定です。次回のテーマは「私たちにできる地域貢献」です。職員の皆さんからの自由投稿やニュース、感想などもお待ちしております。また身近に起きたこと、楽しかったこと、笑えたこと、悲しかったこと、、、編集部まで何でもお知らせください。

つくしジャーナル編集部